

2018年度 事業報告書

一般財団法人 日本AED財団

I. 事業期間

平成30(2018)年4月1日～平成31(2019)年3月31日

II. 業務執行状況

1. 組織整備

(ア)AED大使として、新たに中村憲剛氏(プロサッカー選手)が就任

(イ)顧問として、新たに丹呉泰健氏(元財務事務次官)、野口宏氏(愛知医大名誉教授)、二川一男氏(元厚生労働事務次官)、村井満氏(Jリーグチェアマン)が就任

2. 会員数の増加と新たな支援の枠組みの構築

(ア)会員

- ① 維持会員 21社(+2)
- ② 賛助会員 9社(+4)
- ③ 法人サポート会員 2社(+1)
- ④ 個人会員 7(+3) ※ ()は前年比

(イ)事業協賛

- ① ショールーム展示協賛金(7社から賛同)
- ② AED推進フォーラム協賛金(7社から賛同)
- ③ スクールフォーラム協賛金(6社から賛同)
- ④ 減らせ突然死共催金(4団体より賛同)
- ⑤ 小学生向副読本協賛金(4社より賛同)
- ⑥ 監修事業 学校教材・山岳ドローン(2社へ監修)

《主な取り組み》

全体事業

<1> 公益財団法人化への取り組み

2019年度9月を目標に申請中。

<2> 記念フォーラムの実施

11月15日世界貿易センタービルにて、高円宮妃殿下のご臨席を賜って開催。

当日は妃殿下のお言葉をいただき、「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」をテーマにシンポジウムを行った。有森裕子AED大使、Jリーグチェアマンの村井満顧問、陸連の横川浩会長らスポーツ関係者にもご参加いただき、有益なご助言をいただいた。第二部の懇親会では引き続き妃殿下のご臨席を賜り、AED功労賞の表彰式を行った。一部は約200名、二部は約100名が参加し、賑やかな会となった。

取材：NHK、フジテレビ、日本テレビ、朝日新聞等

<3> AED緊急使用時パッド補充サービスの確立

AEDマップの登録数増加と、AEDの利活用を促進するため、AEDの適切な設置と管理、情報提供を確認するとともに、そのAEDが緊急で使用された際にパッドを無償提供する制度を開始した。

< 4 > 会議の開催

事業の取組を具体化するため以下の会議を開催した。

評議員会： 5月17日 於:KKR ホテル「梅」

理事会：(4回) 5月17日・6月29日・9月12日・3月7日 於:慈恵医大他

実行委員会：(4回) 6月29日・9月12日・12月12日・3月7日 於:慈恵医大他

執行部会：(12回) 毎月1回 於:事務局

< 5 > 表彰事業の実施(AED 功労賞の授与)

AED の利活用促進の為の仕組みや仕掛け作りに貢献した個人や団体を表彰するため、昨年度に引き続き 11 月に行われた AED 推進フォーラムにて下記 3 件を表彰。

【最優秀賞】「胸骨圧迫や AED の使い方を普及させるための教材開発」

災害に強いまち・ひとをつくる会 与儀 真也 様

【優秀賞】「心肺蘇生法を学べるカードゲームの開発」

CUE(齊藤桃乃 様、藤森叶子 様、小川秀美 様、宮崎理花子 様、岡崎大志 様、
中村大雅 様、烏海健一 様)

【理事長特別賞】「親子で AED を使用した救助活動を実施」

石井和子様 斗和君 (小学 4 年生)

< 6 > 情報発信力の強化

① ホームページ・ソーシャルネットワークを通じた情報発信

インターネット上での検索上位に来るための工夫や、記事へのアクセスのしやすさの改善、フェイスブックでの情報発信を継続し、インスタグラムでの発信も開始した。

② News Letter の発行

News Letter を発行し、活動の周知と啓発に役立てた。

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/NewsLetter_vol4_20181227.pdf

https://www.aed-zaidan.jp/user/news/70/iq3ir0g0wjcqvc4slo9k_pm8hu-ildfu.pdf

③ AED サスペンスの展開

AED を学ぶための e ラーニング教材『心止村湯けむり事件簿』は好評により配信を継続。パンフレットを配布し、各地イベントでの普及活動を行った。

<http://aed-project.jp/>

④ AED 普及啓発に関わるコンテンツの作成と配布

- 普及啓発ポスター：昨年度に引き続き、キャノングループの協力のもと作成し、スポーツ関連施設、教育機関等を中心に配布する。

札幌消防協局 450 枚、ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 30 枚、城西国際大学 10 枚他約 600 枚配布

- AED モックの作成

6 月に完成 J リーグ普及啓発のビデオにも登場

- J リーグ普及啓発ビデオ作成

1 月末に完成し、J リーグが開幕する 2 月 22 日からスタジアム内の大型モニターを利用し、全国の 54 スタジアムで放映開始

- ⑤ AED 大使の協力による情報発信
 中村憲剛大使：(プロサッカー選手) が啓発ビデオに出演
 蝶野正洋大使：防災イベントやトークショーで大使を務めていることをアナウンス
 山本篤大使：尾張旭での市民ジョギング大会に参加し普及を呼びかけ
 有森裕子大使・青木まり子大使：AED フォーラムに参加、ご助言
- ⑥ AED 講習会の提供
 会員企業を中心に、AED 講習の機会を提供する。
 全メーカーの AED を揃えた AED ショールームにて AED 講習を実施。1 回 5 名程度参加で、50 名受講。
- ⑦ AED 案内標識の提案
 AED 案内標識などの提案によって AED の使用頻度を高める環境の構築を推進した。。7 月 27 日 AED 財団主催で案内用記号 JIS 化に向けた検討会実施。
 10 月 3 日経産省にて案内用記号改正原案作成委員会(第 1 回)開催。
 2019 年 2 月 22 日経産省にて案内用記号改正原案作成委員会(第 2 回)開催で内定し、6 月に発表予定。

< 7 > ドローンを活用した AED 運搬実験の実施

ドローンを活用して AED を運搬するシステムについて実証実験を行った。

7 月 31 日 季美の森ゴルフ場&別荘地にて、ドローンで AED 搬送を行ない、計測結果を発表した。450m まではドローンもカートも大きな差はないが、より遠くの距離では、ドローンの効果も高くなるということが分かった。また、一般住宅への AED 搬送は、ドローンの 2 分 31 秒に対して、消防署から救急車を想定した車で行った計測では、10 分 10 秒である。郊外や広大な運動施設など、距離や障害物が多い地域では、ドローンによる AED 搬送によって、一人でも多くの人命を救助できる可能性があることを確認した。

<https://www.dronetimes.jp/articles/3270>

School

< 1 > 学校教育関連団体との協働事業の推進

文部科学省を始めとした省庁、日本学校保健会、日本スポーツ振興センター、全国学校安全教育研究会等の学校保健・安全に関わる組織、個人との連携を強化し、学校への心肺蘇生教育と AED の普及に関する協働事業を進めた。

2 月 15 日全国学校安全教育研究大会(於:東京都墨田区立外手小学校)に展示協力

2 月 16 日学校への BLS 教育導入検討委員会との合同会議を開催し情報交換を行った。

< 2 > 小学生版副読本の配布

20 万部作成し、全国 1,192 校に 189,896 部配布。ホームページ上でもダウンロードできるように公開。

< 3 > 学校への心肺蘇生教育普及に関する情報を集約した HP の企画・立案

現在、様々な団体で公開されている教育現場への心肺蘇生普及に関する情報を集約し、アクセスの基地となるホームページの開設にむけて、スクールフォーラム等からの成果物を掲載したコンテンツを作成した。

< 4 > 学校版 AED 設置ガイドラインの作成・配布

関係する団体、個人等と連携し、学校版 AED 設置ガイドライン「学校での突然死ゼロを目指して」の再検討をはじめた。

< 5 > 研究委嘱校制度の策定

救命教育の教育研究開発を進めるにあたり、意志を持つ学校に対して研究を委嘱し、その成果と課題を発表してもらうため、要項を作成した。それに基づいて研究委託嘱校として、つくば市立竹園西小学校にてスクールフォーラムのなかで救命教育公開授業を行った。次回に向けて大阪府吹田市の学校関係者に依頼。

< 6 > フォーラムの開催

教育導入への基盤を構築するため、研究委嘱校において、救命教育のモデル授業やシンポジウムを開催した。

2月16日つくば市立竹園西小学校にて「学校での突然死ゼロを目指して～小学校からの教諭による救命教育の推進～」を開催。学校での突然死ゼロのため、小学校からの救命教育の推進を目指しスクール部会が中心となってフォーラムを開催。

救命教育の公開授業・BLS（一次救命処置）の重要性と学校教育への導入についてシンポジウムを行い、約200名が参加し、教育現場での AED 教育の重要性についてご理解いただいた。

シンポジストは、つくば市長 五十嵐立青、財団理事 桐淵博氏、明日香さん母 桐田寿子氏、文科省総合教育政策局 吉門直子氏・つくば市教育局 岡野知樹氏、竹園西小 久保絵美氏。座長は財団実行委員 立川法正氏。

取材：NHK 水戸放送局、共同通信社、毎日新聞社他

Sports

< 1 > 安全なスポーツ環境の構築（スポーツ中の心臓突然死ゼロを目指した取り組み）

① 提言「スポーツ現場での心臓突然死をゼロに」を活用した啓発の実践

4月26日 提言「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」を日本スポーツ協会記者クラブにて発表。

日本循環器学会と共同で、スポーツ中に心臓発作を起こして亡くなる突然死をなくすため、救命に欠かせない AED を倒れてから3分以内に使えるよう会場やコースに配置するなど、体制の整備を求める提言を発表した

② スポーツ施設の AED 設置場所ガイドラインや案内標識の見本提示

スポーツ施設などへの AED 設置場所のガイドラインや案内標識の見本をホームページ上に示すため、JIS 化に向けた検討会を実施。全体事業<6>⑦に含む。

③ スポーツ関係者対象の心肺蘇生・AED 講習体系の推奨

様々なスポーツ関連団体と協力して、あらゆるスポーツ関係者がスムーズに心肺蘇生と AED の使用法を習得できる講習体系検討し、優れた事例や AED のサポート体制を紹介していく。

11月16日 AED フォーラムにて陸連の横川会長にご参加いただき連携協力についてご助言をいただいた。

3月15日全国ママさんバレーボール連盟で AED 講習を実施

< 2 > スポーツ関係者への啓発活動の実施

① スポーツ関係者を対象としたシンポジウムの開催（全体フォーラムとして計上）

記念フォーラムのテーマを「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」とし、スポーツの指導者・運営者等を対象に、AEDを含めた救護体制の構築を進める。スポーツ中の突然死のリスクへの認識を共有するとともに、AEDを適切に配備し、他のイベントの見本となる体制を構築しているスポーツ大会、チームの表彰等を行うことで、安全なスポーツ環境への理解を深めた。

② スポーツ中の事故等に関する情報収集結果の発信

スポーツ庁の発信する第2期スポーツ基本計画においても言及されている、スポーツ中の事故等に関する情報収集を行った。

③ スポーツ中の救護体制を通じた社会への情報発信

様々なスポーツ中の救護救急体制を整備構築し、安全なスポーツ環境の有用性を発信するため、財団理事が2020東京オリンピック・パラリンピックに係る緊急・災害医療体制のための医学・医療の関連団体連合体(コンソーシアム)へ委員として参画。

5月2日、10月12日、1月16日 委員会に参加。

< 3 > スポーツを通じた心肺蘇生・AEDの啓発

AED大使らスポーツの情報発信力を生かし、スポーツを通じた心肺蘇生・AEDの社会啓発を進める。アスリートセーブジャパンが制作中のスポーツ関係者によるスポーツ関係者のためのAED普及啓発映像を発信。

Social Movements

< 1 > 各種団体と連携した社会運動化の促進

各種団体と連携して、心肺蘇生・AEDの利活用、普及促進につながる社会運動を強化した。

① 消防庁、厚生労働省、日本救急医学会、日本救急医療財団主催【救急の日2018】に出展(9月9日 場所：ダイバーシティ)

AED探しゲーム・親子でAED教室を開催

② JR西日本あんしん財団主催の【第6回いのちのリレー大会～】共催(11月3日 場所：京都駅ビル駅前広場)

救命処置に関するミニイベントならびに救命啓発動画の上映

< 2 > 精度の高い全国AEDマップの構築

全国規模で精度の高いAEDマップを構築し、「今使えるAED」の情報を共有するために、ボランティアの協力を得てスマートフォンからAEDの設置情報を登録・公開するAEDマップを開発。12月に完成し、1月8日にプレスリリース。

AED N@VI <https://aed-navi.jp/>

< 3 > AED救命支援システムの普及に向けた課題の整理と実証実験

119番通報と連携して、心停止現場付近にいる救命サポーターがAEDを現場に運ぶ、というシステムに関する課題の整理と実証実験への協力を行うことで、既存のAEDが活用

される機会を増やすため AED 救命支援システム AED Go を、愛知県尾張旭市で継続し、12 月からは千葉県柏市でも実証実験中。

< 4 > 救命サポーター制度の確立

AED マップへの情報提供と、AED 救命支援システムによる AED の運搬を担う、救命サポーター制度を構築。

救命支援システム及び AED N@VI 登録サポーターは、3 月現在約 600 名。

サポーター登録呼びかけチラシは 3 月に完成。

< 5 > AED マップ・AED 救命支援システム活用検討会

AED マップ・AED 救命支援システム活用検討会を開催し、課題とその解決策の検討を進めた。

5 月 10 日、10 月 18 日、2 月 28 日に開催

< 6 > AED 普及団体支援制度の構築

公益財団法人 日本心臓財団および特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会と連携し、救命講習が受講しやすい社会基盤の整備を開始した。

AED 財団が全国 Push プロジェクトの事務局となり、全国 Push プロジェクト会議を 2 月 15 日に開催。

【その他の活動やトピックス】

1. 三田村理事長が、京都府での大相撲の春巡業において土俵上で舞鶴市長が倒れられた件について NHK ニュースで解説(4 月 4 日)
2. 桐淵理事が、東京新聞くらし欄掲載 〈わたしの転機〉『心肺蘇生法全国で説く 教育長の時に児童亡くし AED の活用推進に尽力』(4 月 18 日)
3. 三田村理事長が、NHK news web 「あなたは心肺蘇生ができますか？ためらわないための Q&A」にコメント(4 月 18 日)
4. 武田理事が、日本小児科学会 小児救急蘇生シンポジウムにて講演「学校での突然死ゼロを目指して」(4 月 19 日)
5. 武田理事が、東京新聞紙面と Web 【暮らし】記事・産経ニュース Web からだ記事他「目の前で人が倒れたら そばの人こそ救命措置を」に解説掲載(5 月 15 日)
6. 石見専務理事が、毎日新聞 林奈緒美記者に AED で助かったデータ、ドローンの実証実験、現在の状況について、の取材を受ける(5 月 17 日)
7. オリパラコンソーシアムのホームページに提言「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」が掲載される(5 月 18 日)
8. 桐淵理事が、東海中学・高等学校にてサタデープログラムで救命救急を講演(6 月 30 日)
9. 石見専務理事が、NHK テレビ放送「視点・論点」に出演。「AED と心肺蘇生 更なる活用への課題」(7 月 4 日)
10. 三田村理事長、石見専務理事が、城西国際大学にて AED 講習会を実施。(7 月 4 日)
11. 三田村理事長が、産経ニュース「ゆうゆう life」に「スポーツ中の突然死防ごう」のタイトルで AED を使える整備を求める提言の記事を掲載。(7 月 12 日)
12. TBS 系列「健康カプセルゲンキの時間」の AED 解説を監修(7 月 26 日)
<https://hicbc.com/tv/genki/archive/180909/>
13. 事務局にて、岩手日報社報道部より AED 活用、AED 管理運用について取材を受ける(7 月 26 日)

14. 太田実行委員が千葉県季美の森ゴルフクラブに於いて、ドローンによる AED 運搬ならびに AED ショックまでの実証実験の監修、総監を行う (7 月 31 日)
15. 東京新聞紙面と Web【暮らし】記事・産経ニュース Web からだ記事他に「目の前で人が倒れたら そばの人こそ救命措置を」に解説掲載。(8 月 2 日)
16. 武田理事が、日本経済新聞 2018. 8. 16Web ニュース:小学生が救う会「ジュニア救命士」講習記事にコメント掲載(8 月 16 日)
17. 柏市消防署主催 AED GO 取扱説明会が NHK「首都圏ネットワーク」にて放映される(12 月 14 日)
18. 「2018 J LEAGUE AWARDS」会場：横浜アリーナ当該試合よりサッカー試合時に場内アナウンス時に AED の案内が放送で開始となる(12 月 18 日)
19. AED N@VI プレリリース(1 月 8 日)
20. 石見専務理事が、NHK「あさイチ」に出演(1 月 9 日)
21. 毎日新聞朝刊に『AED 使って訴え・・・母と教育長が歩んだ道』1 面及び 4 面全面掲載(1 月 20 日)
22. FUJI ZEROX SUPER CUP2019 於埼玉スタジアム 2002にて「AEDどこにある動画」ビデオ放映 (2 月 16 日)
23. AED N@VI が、NHK ニュースで取り上げられる。(2 月 23 日)
https://www.nhk.or.jp/d-navi/2020/article_19.html
24. 三田村理事長が衆議院第一議員会館で講演「市民による AED 活用と応急医療」(3 月 28 日)

以上